

令和2年3月31日

令和2年度 すくすく泉 事業計画書

運営団体名	特定非営利活動法人いずみの会	
代表者名	近藤和義	印
施設責任者名	上田順子	印

[添付書類]

- ☐ 団体等の概要
- ☐ 事業計画書
- ☐ 団体構成員・施設スタッフ名簿
- ☐ 収支予算書
- ☐ 会則・定款

団 体 等 の 概 要

団 体 名	特定非営利活動法人 いずみの会	フリガナ 代表者名	こんどう かずよし 近藤 和義
所 在 地	(〒 -) <div style="text-align: right;">Tel</div>		
代 表 者 連 絡 先	(〒 -) <div style="text-align: right;">Tel</div>		
設立年月日	法人登記：平成26年9月3日 (任意団体として平成18年6月活動開始)	活動年数 (令和元年2月1日現在)	法人化後4年2カ月 任意団体を含めた 通算は12年5カ月
これまでの 活動内容	<p>平成18年6月 子どもと地域のための施設建設にむけ地域有志による署名活動が始める</p> <p>8月 武蔵野市議会に土地購入と施設建設を求める陳情をし、採択される</p> <p>11月 「泉幼稚園跡地利用を考える会」発足（地域有志、地域の子ども・福祉関連団体関係者による武蔵野市コミュニティ研究連絡会の事業として）</p> <p>平成19年3月 「泉幼稚園跡地利用を考える会実行委員会」発足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の誰でも参加できる実行委員会29回開催 <p>平成21年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跡地を利用した地域住民対象の開放イベント開始（夏ミカンの収穫とマーマレードづくり、柿の収穫とカリンジヤムづくり、木工、月見など）10回開催 <p>平成22年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跡地を利用した乳幼児対象の開放イベント開始（いずみの広場）13回開催 <p>平成24年4月 実行委員会をひきつぎ、任意団体「いずみ会」発会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉跡地を利用した乳幼児親子対象の開放イベント（いずみの広場）3回開催 ・コミュニティーセンターを利用した乳幼児親子対象のイベント（いずみの広場お部屋バージョン）2回開催 <p>平成25年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉跡地およびコミュニティーセンターを利用した乳幼児親子対象のイベントに助成金による講習会や試食体験も開始（いずみの広場）8回開催 <p>平成26年7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉幼稚園跡地に武蔵野市の「すくすく泉」が完工し、市から施設の貸与と補助金の援助を得て、保育事業およびひろば事業を開始 <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意団体「いずみ会」は特定非営利活動法人「いずみの会」として認定され事業を継承する <p>平成28年4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ保育室が小規模保育事業（B型）に移行（連携園 まちの保育園吉祥寺） <p>平成28年5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次総会で新体制による新理事会が承認される <p>平成28年10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こらぼのコミセン親子ひろばを中町集会所で開始 <p>平成30年4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの保育園吉祥寺と連携園の提携 <p>平成30年8～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリン福祉財団の助成金を得て、地域子育て応援マークをデザインしチラシやチャームにして地域貢献をした <p>平成31年4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野赤十字保育園と連携園の提携 <p>令和元年9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の職場体験 受け入れ開始 		

<p>団体の アピール ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の力で乳幼児親子の居場所づくりをする、ということで始まったすくすく泉は6年めとなり、地域のお母さんスタッフが、真摯に経験を積み、有資格者も増え、先輩ママとしての身近な存在であることに加え、プロとしての安定感を兼ね備えた存在になった。これがすくすく泉の暖かい空気感の基である。 ●転居してくる親子も多く、また外国人親子もいる。ここに親子で遊びに来ることで、地域の人と知り合え、細かい情報を手に入れることができる。地域への入り口としての機能を果たしている。 ●理事にも会員にもスタッフにも、立ち上げ時から関わっている地域の方々が多く、現在まで大きな力となっている。また、利用者からスタッフになった者もいる。 ●周辺の方々も理解して応援してくださっていることから、泣き声に関しての苦情が一件もないどころか、行事に協力して頂いたり、環境整備を手伝ってくださったりと、地域に見守られている施設になっている。 ●3事業を進める他、地域多世代交流として、昔遊びカフェの開催、コミセンの親子ひろばへの協力、コミセン祭りへの参加、井之頭祭りへの参加、各小中学校の消防訓練への参加などを通し、積極的に地域活動にかかわり、子育てを支えていく地域の拠点となる活動をしている。 ●近隣の保育施設、高齢者施設、コミュニティーセンター、緑ボランティアなど、様々な団体との連携が進んできている。 ●地域子育て応援チャームをきっかけに、成蹊大学の学生ボランティアたちとも交流ができた。中高生、大学生などの若者も共感してチャームをつけてくれた。
------------------------------	---

事業計画書

1 運営理念等

【運営理念】

- 「保育」、「ひろば」を2本柱として、地域の子どもたちが地域のみんなに愛されて育つ場をつくりまします。
- 樹木に囲まれた自然空間や泉文庫の豊富な絵本等の蔵書を活かして子どもの感性を育み、そこで過ごす子どもにとって、楽しく豊かな原風景となる場をつくりまします。
- 地域の中の多世代の交流を大切に、子育てを通してみんなが豊かな時を過ごす場をつくりまします。
- 子育ての不安感、負担感、孤立感を軽減し、相談しやすく、様々な子育て情報を得られる場をつくりまします。

【子育て支援ニーズをどのように捉えているか】

乳幼児期の子育てが、個人ひいては社会全体に大きな影響を与えるものとして、国際的にもその重要性に対する認識が高まり『子どもの最善の利益の尊重』『子どもの市民的自由』『子どもと親のウェルビーイング（個の尊重と自己実現）の促進』などの国内外の考え方も社会的なニーズと捉えている。しかし実際に、子育て中の親子と過ごす最前線では、子育てをめぐる様々な厳しい状況を実感している。保育所保育指針にもあるように、少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化の進行、共働き家庭の増加を背景に、乳幼児と触れ合う経験が乏しいまま親になる人が増えている。身近な人からの助言も得にくい等の状況の中、子育てに対する不安や負担感、孤立感を抱く人は依然として少なくなく、虐待してしまうかもしれないと悩む親もいる。また、乳幼児期における愛着関係は、自尊心、自己制御、忍耐力といった社会情動的側面における育ちの土台となるが、その大事な時期に不安感から育て急ぐ保護者も目にする。

また、多様な子育てニーズとしては、アレルギー疾患を有する子ども、外国籍家庭、障がい児など特別な配慮を必要とする子どもと保護者の存在を包括する必要がある。全ての子どもの健やかな育ちと、その実現のための取り組みは、当事者となる保護者も含めて、スタッフ、近隣の住民、コミセンや民生委員などの地域の方々、関係する行政や専門機関、近隣の保育施設、小中学校など地域全体がその理解を深めると共に、連携し支えあって進めていくことが必要と考える。

【5年間の目標】

●3 事業の連携で質を高める

小規模保育事業、一時預かり事業、地域子育て支援拠点事業がそれぞれ質の高い事業を展開すると共に、各事業の特色や良さを他の事業に活かして連携することで、更に利用者のニーズにあった内容を提供できるようにする。また、防災に関しては、3事業が利用者の命を守るために連携協力していく体制づくりを引き続き進めていく。

●多様な子育てに対応できる施設にする

一人親、ステップ家族、主夫、祖父母育児、外国籍、精神疾患、アレルギー疾患を有する子どもや障がい児など特別な配慮を必要とする子どもなど、様々な家族の形や子育てがある。父親の育児参加、父親同士のコミュニケーションへのアプローチも含め、子どもへの支援や保護者への配慮など、それぞれのニーズに寄り添えるようにしていきたい。

●切れ目のない支援の一翼を担う

妊婦さんへのアプローチから始まり、乳幼児期にかかわった子どもたちが小・中学生になり、やがて自分たちが子どもを育てる側になっていく、その過程にずっと地域に存在し見守るセーフティーネット、言うなれば“実家”のような場所になることをイメージしている。

●地域全体で子育てするための連携

今までにつながってきた地域の様々な人的資源を大事にしながら、更に地域との連携を深める。

●支援者同士の連携

近隣の子育てひろばや保育施設との連携に始まり、専門機関や行政との連携も含め、親子を真ん中にした支援者同士の連携を更に進める。

●運営体制の安定化と次世代へのつなぎ

支援を途切れさせないためには、立ち上げの勢いだけではなく、次の5年間は、さらに長いスパンで安定的に運営していくことを目標に置くことが不可欠である。そのために、現スタッフの理念を引き継ぐ次世代スタッフの確保と育成を進める。

2 内容

NO	項 目	提 案 内 容
1	小規模保育事業について	<p>保育は、未来を担う子どもを育てるという社会的責任を負う。人権の尊重、個人情報保護の確保、説明責任、苦情解決に真摯に取り組み、保育所保育指針を踏まえた保育内容の充実、健康および安全の確保、「ひろば」との連携による子育て支援、職員の質の向上に努め、0～2歳児10人という少人数の良さを活かした保育を今後も粛々と積み上げたい。</p> <p>基本理念・基本方針</p> <p>～一人ひとりの健やかな成長発達に寄り添う保育～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもを愛し、尊重します。 子どもが最善の利益とその権利を尊重され、心身ともに健康で、未来をつくり出す力の基礎が育つよう、チームワークを活かして保育します。 ●乳幼児期を豊かにするために家庭と連携します。 人間性の土台が育つ大事な時期としての認識や子育ての喜びを共有し、今を豊かにするために保育士と保護者が連携していきます。 ●地域から生まれ、子どもを中心に地域がつながり、支えあう関係づくりをめざします。 地域の自然や様々な物的人的資源、文化を保育に活かします。また、保育を通して多世代がつながりを深める拠点となり、地域全体の福祉や家庭支援に寄与していきます。 ・子どもは自分で育つ素晴らしい力を持っているという子ども観を共有し、ありのままの自分を出せる安心感を土台に、発達に応じて様々に表現し、自分で決めることを大事にしたい。否定語、禁止語、命令語を極力使わず、共感的、応答的にかかわる保育を更に深めていきたい。 ・5年間をかけて保育の軸になる常勤保育士を中心に、複数の保育士がそれぞれ

		<p>リーダーとして保育をつないでいく体制ができた。更に常勤保育士1人を増やした保育体制づくりを強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの情報共有と資質の向上を目的として、日々の10分ミーティングや日誌の共有、ミーティングや個人案会議などの活用、年間を通したテーマを決めて、具体的な場面での子どもの読み取りや自分のかかわり方について、スタッフ同士で深い話し合いや事例検討をしていきたい。 ・専門性の向上では、研修チームを中心に全員で学ぶ機会として内部研修に力を入れてきた。スタッフそれぞれに必要な外部研修への参加も増やし、受講した内容をミーティング等で共有して様々な分野の最新の知識を学んでいきたい。 ・アドバイザーの先生による月1回の視察と「ひろば」と合同の現場会議を行うことで、子どもの成長について継続的に読みとりとかかわりを重ね、自分たちの保育についても見直してきた。更に、「ひろば」や「一時預かり」の様子も共有することができている。有効な機会として、日々の保育につなげていく。 ・昨年度のテーマ『よみとってみたら』から、子どもの安心感や人との信頼関係を土台に、保育士が保育の中で子どものやることに価値を見出してきた。次のテーマをスタッフの学ぶ意欲につなげ、保育に正解はなく、状況の読み取りや課題などから、一人ひとりに合わせたかかわりを保育士同士でふりかえって考えていきたい。 ・家庭との連携において、これまでも日々の保護者との情報共有や成長を喜びあう関係づくりに努め、更に『保護者とスタッフの輪(和)の中で子どもたちがみんな育てていく』という認識を共有できるように、保護者会や遊ぶ会、参観面談等を通して保護者同士のつながりを育んできた。人生の土台となるこの時期ならではの大事な育ちについても一緒に考えられるような情報発信をしていきたい。保護者むけの図書を充実させたい。 ・アレルギーや発達上の課題をかかえた子どもへの対応は、医療機関を含めいろいろな機関との連携を視野に入れ、個別の支援計画をたてて家庭との連携を密にとりながら進めていく。(アレルギー対応マニュアル作成済) ・防災体制を考える中で、様々な課題に出会い検討してきたことを防災マニュアルとしてまとめた。今後は、一時預かりも含めた子どもたちの命を守り安全に保護者に引き渡すための保育と並行して、地域にある乳幼児施設としての在り方を考えていきたい。 <p>特色ある保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一時預かり」や「ひろば」が併設された複合型の保育施設の特色を活かして、地域の親子や中高生、高齢者やボランティアという多世代との触れ合いの機会を増やして、保育の専門性を活かしながら、子育てをみんなで応援する地域づくりに貢献していきたい。今後広げていきたい活動は以下の4点である。 <ul style="list-style-type: none"> *元保育士の劇団の発足を活かすプログラム。 *赤ちゃんとのふれあい体験（プレママやその家族対象） *イベントや日常を通した地域の親子とのかかわり *中学生の職場体験を受け入れ、2年目として、多世代交流の中で、子どもへの理解を深めたり、母親と話すことで、育てること、自分が育てられたことなど振り返るなど、様々なことを感じ考える機会になるよう工夫をしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・感覚が敏感なこの時期に五感を通して自然を楽しみ、不思議と出会う体験、命
--	--	---

		<p>を知る経験をさせていきたい。また、歩行を確立する時期に全身を使っているような場所をたくさん歩き、体幹や足腰が強くなるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣保育園との連携として、まちの保育園吉祥寺(連携園)に加え、武蔵野赤十字保育園が連携となって2年目となる。まちの保育園吉祥寺とは、公園での交流と月1回の打合せから始まったが、年々内容が充実してきている。(芋ほり、豆まきの鬼が来る、劇や音楽会に招待など)。 まちの保育園吉祥寺と精華第一保育園も含め3園で合同の研修会では、近隣の保育園も参加できる仕組みづくりをしながら、地域で子どもを育てていく関係づくりをしていきたい。 <p>チームワークを活かした保育</p> <p>「いずみのおうち」は、常勤職員が2人、あとは非常勤職員という特殊な職場である。そのため安定した保育をするためのシフト担当、役割分担、情報共有に支えられ、それぞれの特技や個性を活かしてチームワークで乗り切ってきた。定着率が高く、みんなで協力していこうという当事者意識が高いスタッフに恵まれている。今後も新しい常勤を採用しよいチームを作っていきたい。</p> <p>※小規模保育事業の保育内容の詳細については、全体的な計画に記載</p>
2	一時預かり事業について	<p>「一時預かり」は、以下の3点を重要な骨子としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 命を守り無事にお返しする。 2: 安心して保護者を待てるような子どもの心の安定。 3: 安心して子どもと離れていられるような保護者からの信頼。 <p>今後も、「ひろば」での「一時預かり」の特徴を生かし、相互に声掛けをしながら一体となり、支援を続けていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺に短時間子どもを預かってもらえる人間関係がない、地方出身や核家族の親が多く存在する。 「すくすく泉」は、親の傷病、冠婚葬祭、第二子出産時、または精神的肉体的負担の解消のためにも、早朝～夜間、土曜日、宿泊を含め、安心して短時間から預けられる場として、毎年200人ほどの登録がある。 ・子どもを預けることに不安や罪悪感を抱く親もいる。 日頃から遊びに来ることができる「ひろば」でのオープンな預かりであることが、預ける親の大きな安心感につながっている。 実際に預かりの様子を見たり、利用者の声が聞けたりすることが、利用への心理的ハードルを下げる。理由を問わない一時預かりは「何か深い事情がある」時も、「リフレッシュ」時も、同じように利用ができることで、親が負担感を増幅させ、虐待等につながってしまうことを未然に防ぐ役割を果たしている。 ・「一時預かり」の利用をベースに、親同士の預け合いにも発展し、大変そうなときに手を貸すことが自然の姿として見られるようになり、また、ひろばでは、自分の子以外の子どもと遊ぶ利用者の姿も普段の光景になった。 ・「一時預かり」という状況は、子どもが不安定になりやすい。そのためにスタッフが自身の子育て経験を活かし、母親のように寄り添うことを基本としている。そうした母親目線を大切にしながら、他者の子どもを預かるという重大な責務を負うべく、情報交換、内部・外部の研修の受講などを大事にしている。保護者にとってスタッフは、子育ての日常の一部を支える身近な存在であり、一緒に子どもの成長を喜んでくれる気負いのない相談相手となっている。スタッフのほとんどが地域の人であることは、彼女たちが発信源となり、子育てに

		<p>関する地域の理解が高まるきっかけにもなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近のキャッシュレス化の流れにおいて、現金を持たない親が増えている。「一時預かりの支払いのためにおろしてきた」また、「現金を持ってくるのを忘れた」などがじわじわと増えてきた。子どもを抱いて財布を出すのが大変、ポイント還元される、等の声があり、今後も増えていくのだろう。何かしら対応しなくてはいけない時代が来たのかもしれない、と、感じる。
3	<p>地域子育て支援拠点事業について (「泉文庫」の管理・活用方法、公園を活用した展開等を含む)</p>	<p>日常のひろば</p> <p>傾聴と情報共有を軸にし、利用者それぞれの状況や悩みなどに、スタッフみんなで気を配り、言葉かけや働きかけを考える。「技術を持って空気感をつくる」を常に意識していく。</p> <p>また、おもちゃ、環境の工夫、わらべうたや手遊びの時間帯を設けたり、季節を感じられるよう日常に変化をもたせる。工作コーナーは、親子が一緒に作る楽しさを提供する。</p> <p>利用者と関わる中で必要に応じ各専門機関と繋ぐ。</p> <p>初めての親子も、スタッフとともに利用者みんなであたたかく迎え入れることを大切にする。利用者を“お客様”にせず、この場を一緒につくる仲間として意見をきき、取り入れていく。</p> <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期プログラム <ul style="list-style-type: none"> *お昼ごはんの前の手遊び(毎日・内容は月替わり) *わらべうた(週1回) *ママ部活(週1回) *読み聞かせ(月2回) *ベビーマッサージ(月1回) *助産師による計測と相談(月1回) *誕生会(月1回) ・年1回、不定期のプログラム <ul style="list-style-type: none"> *コンサート *アートイベント *離乳食講座 *幼稚園ママの話を聞く会 *保活の基礎知識 *発達に不安のある子たちのピアサポートの機会 *パパの子育て応援講座 *お月見会など。 ・今後の展開として <ul style="list-style-type: none"> *特に保育が一体となった施設ならではの子育て支援をさらに進めていく。例えば、低月齢時や妊婦対象の保育園体験、乳幼児とのふれあい体験。などにより早期のひろば利用につなげていく。 *父親同士がコミュニケーションを取れるようになる企画を実施する。 *発達に不安のある子と親のピアサポートの機会をつくり、そこからひろばの利用につなげる。 <p>泉文庫</p> <p>泉文庫は、日常のひろばや一時預かりが楽しむほか、月に2回の読み聞かせにも活用。赤ちゃんの興味を引くような絵本や、大型絵本も足しながら、絵本の世界を保護者も含めて一緒に楽しめる工夫を続ける。また、手軽に手に取れる保護者向けの本も内容を確認しながら加えていく。</p> <p>子育て相談</p> <p>お母さん同士で話題を出し合えるような掲示板をつくっていたが、今はそれがなくても気軽におしゃべりができるようになってきたので、ちょっとした悩みや疑問なら、スタッフがファシリテーターの役目をしてみんなで一緒に考える。</p> <p>個別の相談については、疑問に答えることよりも、まずは聴き、信頼関係のもと、必要であれば専門家につなげる。</p>

専門家に気軽に相談できる場としては内部保育士との連携はもちろん、「助産師による計測」や「栄養士による離乳食講座」などのプログラム参加ができる。

悩みを抱えた親子が必要な情報を得られるように、情報コーナーの充実とともに、実際に専門機関等と顔の見えるつながりをつくることにより、的確な手助けにつなげていきたい。

相談室がないことが、実際どの程度のマイナスかはわからないが、この狭い空間の中で特別な部屋に入るというハードルの高さを感じ、設けていない。相談は、時には公園も活用し、その都度話しやすい場で自然に見えるように話をし、知り得た情報には、スタッフ全員が知る、ひろばスタッフだけが知る、コアスタッフだけが知る、とランク付けをしている。

利用者の活動

「ママ部活・もしものいずみちゃん」の活動が続いている。防災についての意識が高まり、また、災害時のすくすく泉の活用についても、利用者の意見がでている。利用者が主体となったのイベントは、今年度は防災食を作ってみる、炊き出しを体験してみる、が実現している。

「お里はどこじゃマップ」。地図に自分の出身都道府県を書き入れる。出身地の近いもの同士で話すのは楽しいし、周囲がみんな「東京の人」に見えていた緊張をほぐすのに役立っている。

発達に不安のある親子のひろば、ピアサポートの企画を、利用者の意見を取り入れながら考える。具体案はこれからだが、2020年度中には具体化したい。

公園の活用

緑ボランティアとの連携により、貴重な自然環境を守り、子育てに活用していく。季節を感じ、のびのびと遊べる公園は、子どもたちの原風景となる。

また、16時に閉所後も30分程門を開放し、公園用のおもちゃを使えるようにしている。「終わりだからさようなら」ではなく、一旦、公園遊びをする時間を作ることで、子どもたちが満足し、納得して帰っていけるよう工夫している。

ボールの紛失や穴あけ、砂場の砂の撒き散らし、公園にある物の破壊などが何度かあり、セキュリティ一面と、公園を利用する小・中学生が心配。あそべえや小学校等と一緒に見守っていききたいと思う。

こらばのコミセン親子ひろば

中町集会所で月2回開催の親子ひろばに出張。すくすく泉のノウハウを活かして親子が安心して楽しく過ごせる場を展開している。「すくすく泉」の周知・利用にもつながり、逆に「すくすく泉」利用親子の行き場の選択肢を増やしている。コミセンを利用する活動を通して、地域の方、他の団体との繋がりも深める。（武蔵野市共助による子育てひろば事業）

4	上記 3 の相互の 関わり方や、その他について	<ul style="list-style-type: none"> ●3 事業のどれを利用しても、利用者に運営理念が伝わる一貫した対応をする。 ●スタッフが資質・課題解決力向上のために、学びや話し合いの機会を内・外にもつ。専門家による講座や連携園との研修会、ミーティングにおけるワークショップ等。また、外部有料研修に参加の場合の補助金制度を設けている。 ●3 事業は分離して運営されているものではなく、それぞれの専門性を軸にしながら交流の機会を持っている。それぞれの利用者に有益な支援を複合的に考え実行している。 ●常勤が必要に応じて運営会議をし、全体を考えながら 3 事業を進めていく体制にしたため、相互理解が深まり、また問題点も明確になって全体としての解決策や今後の方針がみえてきた。 ●日常的に 3 事業の利用者が公園で一緒に遊んでいる。そこに近隣の保育園や小学校、また地域の方々も加わり交流がうまれている。 ●3 事業、もしくは 2 事業と一緒に企画し準備して進めるプログラムがいくつも実現している。(離乳食講座・パパ講座・クリスマス会・コンサート) ●3 事業のスタッフは、基本的には各部署に専従しているが、必要に応じて行き来もする。研修やミーティングへは、事業を越えての参加が可能である。お互いにいつでもサポートができるスタッフを増やすことで、何かあっても支え合える体制をつくっていく。
---	----------------------------	---

5	<p>地域参加・参画方法 (中高生や高齢者の参加や、地域ボランティアによる読み聞かせ・イベント参加、地域住民が団体の会員となり保育を担う等)</p>	<p>この施設は、「子育てを中心に 地域みんなで 未来をつくる場所」であると考えている。</p> <p>「人格形成に特に大切な乳幼児期の子育てを、親だけに負担をかけるのではなく、親子を地域みんなで支えていく。そうして育つ子どもたち、安心して子育てをした親たちが、やがてこの地域の未来をつくる」との考え方のもと、様々なかたちで地域の力をとり入れていく。</p> <p>現在すでに以下のように、関わる仕組みをつくっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> * ボランティア「葉っぱさん」(地域のどなたでも、自分のできること、したいことを登録でき、それに合わせてこちらからお手伝いをお願いする) 読み聞かせ・手作りおもちゃ作成・お花の入れ替え・草むしり等 * 中高生ボランティアの受け入れ。 * 中学生の職場体験の受け入れ * 公園利用者(高齢者、小学生など)との積極的な関わり。 * 誰もが参加できるオープンなプログラム(季節の行事、コンサート等) * 「昔あそびカフェ」と題した、高齢者と子育て世代の交流の場 * 地域民生委員のコーラス * 利用者親の主催するコンサートやヨガ講座等 * 孫を連れて、祖父母の利用の積極的受け入れ * 地域の人がスタッフになる。 * NPO 会員や寄付等で運営を支える * 緑ボランティアとして参加して公園を整備する * 地域のお祭りに、お菓子のふるまいや、お楽しみ企画で参加 <p>もともと泉幼稚園跡地を利用するにあたり、多くの地域の方の思いや願いがあった。その方たちは、あたたかく、時に大変厳しい目で、この施設がどうなっているのかを見守り、支えようとして下さっている。</p> <p>私たちは主に親子ひろばを活用し、こうした地域の方たちとのつながりを大切に深めることにより、多くの親子を自然に地域につないでいくという役割を担っている。</p> <p>地域子育て応援マーク活動</p> <p>会員、理事会、スタッフが一緒に進めているボランティア活動。</p> <p>子育てを見守る側がつけるマークを発案。</p> <p>「いずみのひろば」を運営する中で、「赤ちゃんが泣いてしまうと肩身が狭い」「いやいや期の子どもがいるので、周囲にしつけができていないと見られているようで外出がし辛い」などと、多くの親が緊張感を持った子育てをしていることに気付いた。一方、この地域には、おおらかな目で子育てを見守っている高齢者や子育て経験者、中高生がいることも知っている。この両者を見に見える形でつなげようというコンセプトである。</p> <p>共感してもらえた団体なのが自由に使えるように著作権フリーにしている。</p> <p>このマークを時々見かけると言われることが増えた。今後も、バッグにつけるチャームや、シール、印刷物などに展開して広めていきたい。</p>
---	--	---

3 施設内容・内部体制

NO	項 目	内 容		備 考
1	開 設 時 間	小規模保育事業	7:30～19:00(基本保育時間 8:30～17:00 の中で 8 時間を個別契約) ※満 1 歳児未満は 18 時まで	基本時間内のうち 8 時間での短時間保育、それ以外は延長保育となる
		一時預かり事業	基本 8:30～17:30 早朝 7:00～8:30 夜間 17:30～22:00 宿泊 22:00～7:00	利用時間は最長 6 時間
		地域子育て支援拠点事業	10:00～16:00	
2	開 設 曜 日	小規模保育事業	月、火、水、木、金	保護者会などは休日に開催することもある
		一時預かり事業	月、火、水、木、金、土	
		地域子育て支援拠点事業	火、水、木、金、土	
3	休 日	小規模保育事業	土、日、祝祭日、12/29～1/3	
		一時預かり事業	日、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
		地域子育て支援拠点事業	日、月、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
4	施設利用対象者	小規模保育事業	市内在住の生後 57 日目から 3 歳まで(当該年度において 4 歳に達する児童を除く)	
		一時預かり事業	市内在住の 6 ヶ月から小学 6 年生まで	利用登録が必要
		地域子育て支援拠点事業	0 歳～未就学児の親子(妊婦含む)、孫育ての祖父母等、保護者と一緒の子ども	
5	利 用 料 金	小規模保育事業	小規模認可園の短時間保育の基準による	<ul style="list-style-type: none"> ●昼食代、おやつ代、夕方の捕食代が含まれる ●短時間認定外の延長は 30 分 400 円 ●前々日降園時までには連絡の場合割増料はとらない。 ●前々日降園時以降の急な時間延長は割増料 100 円/15 分
		一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ●メンバー利用 入会登録料 2,000 円 早朝: 7:00～8:30 500 円/30 分 通常: 8:30～17:30 400 円/30 分 夜間: 17:30～22:00 500 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 ・延長(遅刻)料金 通常 250 円/15 分 早朝・夜間 300 円/15 分 ●ビジター利用 入会登録料 無料 早朝: 7:00～8:30 600 円/30 分 通常: 8:30～17:30 500 円/30 分 	

			夜間：17:30～22:00 600 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 ・延長（遅刻）料金 通常 300 円/15 分 早朝・夜間 50 円/15 分 ●宿泊 22:00～翌 7:00 メンバー 9,000 円 ビジター 10,800 円 ・0 歳時加算 1,000 円	
		地域子育て支援拠点事業	無料	カフェ実費。おむつ実費。イベント参加費、講習会参加費などは必要に応じて徴収する
6	職員配置 (資格の有無も記載)	小規模保育事業	小規模保育事業の規定による 0 歳児 3 人に保育士 1 人 1～2 歳児 6 人に保育士 1 人 保育士または保育補助 1 人	子どもの人数による変則シフト制
		一時預かり事業	子どもの人数に応じて、保育士または所定の研修を受けたスタッフを含む 2 人以上（0 歳児 1 対 1、1 歳児以上 子ども 1～3 人：大人 2 人以上、子ども 4 人～5 人：大人 3 人以上）	
		地域子育て支援拠点事業	ひろば専任スタッフ常時 2 名以上	(イベント時増員：増員スタッフは専任に限らない)
7	スタッフ賃金 (時給等)	すくすく泉施設長	すくすく泉施設長(常勤) 月 160 時間 210,200 円	・社会保険完備 ・職責手当 30,000 円 ・専門職手当 10,000 円
		経理事務	常勤事務員 月 160 時間 210,200 円	・社会保険完備 ・職責手当 7,000 円 ・専門職手当 10,000 円
			非常勤事務員 7:30～8:30 1,140 円/時 8:30～17:30 1,056 円/時 17:30 以降 1,140 円/時	
		小規模保育事業	保育施設長(常勤) 月 160 時間 210,200 円	・社会保険完備 ・職責手当 20,000 円 ・専門職手当 10,000 円
			常勤保育士 月 160 時間 210,200 円 月 120 時間 157,650 円	・社会保険完備 ・職責手当 7,000 円 5,000 円 ・専門職手当 10,000 円
			非常勤保育士・栄養士 7:30～8:30 1,140 円/時 8:30～17:30 1,056 円/時 17:30 以降 1,140 円/時	・シフト組手当(1,200 円/1 日)、 ・献立作成事務手当(5,000 円/1 月) ・買い物手当(1,000 円/1 月) ・処遇改善費、キャリアアップ等の臨時的支給あり。 ・事務、ラスト業務・会議(時給)(その他就業規則による)
			基準保育士・給食 7:30～8:30 1,097 円/時 8:30～17:30 1,016 円/時 17:30 以降 1,097 円/時	

		一時預かり事業	保育士有資格者 7:00～8:30 1,140 円/時 8:30～17:30 1,056 円/時 17:30～22:00 1,140 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊 7:00～8:30 1,097 円/時 8:30～17:30 1,016 円/時 17:30～22:00 1,097 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊	・社会保険完備 ・シフト組手当(1,200 円/1 日) ・シフト確定後のキャンセルは60%支給 ・ラスト業務、会議（時給）（その他就業規則による）
		地域子育て支援拠点事業	保育士有資格者 1,056 円/時 10:00～16:00 1,016 円/時	社会保険完備 ・シフト組手当(1,200 円/1 週) ・ラスト業務、会議（時給）（その他就業規則による）
8	年間開設予定日数	小規模保育事業	243 日（2020 年度）	
		一時預かり事業	290 日（2020 年度）	
		地域子育て支援拠点事業	244 日（2020 年度）	
9	年間利用者数／1 日平均利用者数（見込）	小規模保育事業	10 人	
		一時預かり事業	6 人	
		地域子育て支援拠点事業	35 人	